第13章　機械と大工業

1. 機械の発展
2. 生産物への機械の価値移転
3. 労働者におよぼす機械経営の直接的影響

a資本による補助的労働力の取得、女

性労働者及び児童労働

b労働日の延長

c労働の強化

1. 工場
2. 労働者と機械の闘争
3. 機械によって駆逐された労働者にかんする補償説
4. 機械経営の発展にともなう労働者の反発と吸引。綿業恐慌。
5. 大工業によるマニュファクチュア、手工業、および家内工業の変革

a手工業と分業にもとづく協業の廃

　除

bマニュファクチュアおよび家内労

働におよぼした工場制度の反作用

c近代的マニュファクチュア

d近代的家内工業

e近代的マニュファクチュアおよび

近代的家内工業の大工業への移行。

それらの経営諸様式への工場法の適用による変革の促進

1. 工場立法（保険および教育条項）。イギリスにおけるそれの一般化
2. 大工業と農業
3. 機械の発展

〔的場　超訳『資本論』p.198〕

『資本論』でもっとも長い部分。当時

の資本主義の実態のすべてが収められ

ている。

ジョン・ステュアートを確認→機械

の発明は決して日々の労苦を軽減する

ためのものではなく、それは商品を低

廉にするためのものにすぎない。

　　　　　　産業革命で重要な役割を果たした機

械は、動力機、配力機、道具機のうちの

最後の道具機であった。道具機が発展

することにより、それを動かす動力も

人間以上のものとなり、動力機が発展

する。配力機も巨大なものに発展する。

　　　　　　封筒生産の例があげられ、紙を折っ

たり、糊をつけたり、模様を描いたりす

る作業がすべて一つの機械で行われる

ようになった。マルクスは、1862年産

業博覧会で見て感嘆している。

　　　　　　自動装置こそ機械制大工業を成り立

たせる原因であり、こうした自動機械

が工場いっぱいに拡大し、機械的怪物

になる、

　　　　　　機械の発明は、機械をつくるマニュ

ファクチュアから生まれたものだが、

やがて、そのマニュファクチュアから

機械工業へと変革していく。ついには、

交通機関の発展をもつくり出し、鉄道、

蒸気船、電信などの発展を促す。

〔浜林　『資本論』読む、p.57〕

（機械は金もうけの手段）

p.652　機械は、剰余価値の生産のための手段である。

ジョン・ステュアートにたいする皮

肉である。資本家が機械を備えつけた

そもそもの目的を勘違いしている。

（道具と機械）

p.653　道具は簡単な機械であり、機械は複雑な道具である。

どこまでが簡単、どこからが複雑の

はっきりした線は引けない。こうした

区別は何の役にも立たない。

p.653　道具では人間が動力であり、機械では、動物、水、風などのような、人間力がとは異なった自然力が動力であるということに、求める人がある。

これも正しくない。蒸気、今日

では電気がある。

（機械の3つの部分）

p.655　すべての発展した機械は、3つの本質的に異なる部分、すなわち、原動機、伝動機構、最後に道具機または作業機から、成り立っている。

3つを備えたものが機械なんだ。マル

クスの考え方。

原動機－動力。人間、馬、ロバ、蒸気

など何でもよい。

電動機構－歯車のかみ合わせの例。

動力を伝えていく機構。

道具機・作業機－実際の仕事を行う。

チェンそー先端はノコギリ、手元の

エンジンが動かしている。

p.655　はずみ車、駆動軸、歯車、シャフト、ロープ、ベルト、噛み合い装置、…

p.656　労働対象を捉え、目的に応じてそれを変化させる。

（道具機こそが出発点）

‥機械のこの部分、すなわち道具機こそが、18世紀産業革命の出発点をなすものである。

p.657　原動力が人間から出てくるか、それ自身また一機械から出てくるかは、事態の本質をなにも変えない。

…道具が人間から一つの機械に移されるのに応じて‥

マニュファクチュアでは道具を使っ

ている。その道具に電動機構と動力が

くっついて機械になっていく。

（紡績機の発明）p.661　産業革命の出発点となる機械は、一個の個別の道具を扱う労働者を、一つの機構と取り替えるのであるが、…

ジェニー紡績機

ミェール紡績機

リング紡績機

スロッスル

（蒸気機関）

ニューコメンの蒸気機関が最初。ワ

ットは往復運動を回転運動に変えた。

p.661　産業革命の出発点となる機械は、1個の道具を扱う労働者を一つの機構と取り替えある。

労働者は機械の一部になってしまう。

道具を使っていたときは労働者が主人

公であった。

現代の労働者‥。

（馬力）

p.661　馬の力は最悪のものであった。なぜなら、一面では、馬は自分の意志を持っているからであり、また他面では、馬は費用がかかり、…

動力が変わっていく話。

1秒間に75キログラムを1メートル

持ち上げる力。

水車小屋では粉ひき工場だった。

馬と蒸気機関　鉄道馬車　短距離は

馬の方が早かった。

（機械の協業と機械体系）

p.665　ところで、多くの同種の機械の協業と機械体系という二種のものが区別されなければならない。

同じ種類の機械が並んでいる→同じ

品物ができ上っていく。

機器体系→実は一つの体系。

p.667　本来的機械体系が個々の自立した機械に代わってはじめて現れるのは、

本質的な変化である。一つひとつの

作業機が一つの品物を完成させるので

はなく、部品をつくり、その部品が組み

合わされて品物がつくられる。

（機械が仕事をきめる）

p.667　総過程は客観的に、それ自体として考察され、それを構成する諸局面に分割され、…

マニュファクチュアでは、分業が行

われていたが、どの部分を誰がやるか

は労働者が決めていた。「主観的な分割

原理」である。

　 機械はもう決まっているとして出し

てくる。人間がそれに合わせていく。

p.669　それ自体として一つの大きな自動装置を形成する。

オートメーションに人間の方がそれ

に合わせて仕事をしなければならない。

（機械をつくる機械）

‥スライド・レスト（工具送り台）が、〝自動式〟に変わる以前の‥

歯車の正確なかみ合わせ。時計屋の

職人が最初のエンジニアだった。

　 機械をつくる機械の基本は旋盤。

　 大工のカンナかけ→木を固定。カン

ナをうごかす。

　削り節→道具を固定。カツオ節をう

ごかす。

p.672　しかし、一定の発展段階において、大工業は、技術的にも、その手工業的およびマニュファクチュア的な基礎と衝突するにいたった。

動力や道具類が自動的に動くように

なると、マニュファクチュア的技術を

超えざるを得なくなる。

p.673　一商業部門における生産様式〔方法〕の変革は、他の産業部面におけるそれの変革を引き起こす。

絹織物の例。機械化は社会全体に広

がっていく。

p.674　交通・輸送制度は、川蒸気船、鉄道、大洋汽船、および電信の体系によって、徐々に大工業の生産様式〔方法〕に適合された。

p.676　個々機械部分の幾何学的形を、「どんなに熟練した労働者の手に積みかさねられた経験でも与えることのできないほどの容易さ、正確さ、速さで生産すること」が、できるようになった。

p.677　6トン以上の重さであって、７フィートの垂直落下で重量36トンの鉄敷の上に落ちる。

ネイズミスの蒸気ハンマーの説明。

p.678　労働手段そのものの本性によって厳命された技術的必然となる。

機械そのものが、機械が主体の協業

を必然化していく。

1. 生産物への機械の価値移転

機械設備は不変資本。原料と同じく、

その価値は生産物である商品の価値の

一部になる。機械の価値がどのように

して生産物に移っていくのか、第2節

のテーマである。

〔的場　超訳『資本論』p.199〕

機械と労働力、どちらを使うか？

機械に照応する協業および分業など

の労働の構成形態には一線もかからな

い。さらに蒸気や水などの自然力それ

自体にも費用はかからない。

機械装置の購入には大きな費用を要

するが、その費用は一度に商品に転化

されるのではなく、少しずつ転化され

ていく。大規模な機械は過去労働の産

物として現れる。巨大な過去労働の世

界である。この過去労働を一つの商品

に少なく移転すればするほど、効率的

な機械ということである。（多けれ機械

の効率が悪い）前者は機械の摩耗する

速度が遅いということでもある。

機械は、労働力のある部分が取って

代わるわけだから、その限界は労働力

より安いという点ある。高ければあえ

て機械を使わない。

法律で労働が保護されれば、労働力

の価値があがり、その代わりとして機

械が投入される。

どうでもいい安い労働には機械はか

えって導入されない。川船と女性労働。

〔浜林　『資本論』を読むp.71〕

（機械は価値をつくらない）

p.679　機械はどんな価値も創造せず、その生産に機械が役立っている生産物に機械自身の価値を引き渡す。

機械は労働の生産性を高めるが、労

働の支出を増やすわけではない。機械

自体が新しい価値をつくりだすわけで

もない。

　機械は大きな価値をもっている。そ

の価値が移転される生産物の価値を高

くする。原料と違い、一度に使い切るわ

けではないので一度に移っていくわけ

ではない。

p.680　本来的労働手段または生産用具はどれも、労働過程にはつねに全部的に入り込み、価値増殖過程にはつねに部分的にのみはいり込む。

生産するときは、機械は全部動かす

が、機械の価値は一分しか移らない。機

械は耐用年数に応じて少しずつ価値を

移していく。機械は道具より長持ちす

る。

「利用と消耗とのあいだのこの差」

機械の価値は道具に比べて大きい。

道具よりも長く使われる間に、はる

かにたくさんの物（商品）をつくれる。

含まれる価値は、道具より機械による

ものは小さい。道具より機械でつくる

ものが安上がりというのは、①機械の

寿命が長い、②機械の生産力が高い、③

機械がつくり出す商品の分量が多いこ

とによる。つまり、1個あたりで見れば

安いとなる。

（商品1個あたりは安くなる）

p.682　この価値部分が生産物を高価にする程度は、まず第一に、生産物の範囲に、いわば生産物の面積に、依存する。

1億円の機械と10億円の機械ではそ

の働きに違いがあるのは当然。その働

きによって生産物につけ加えられる価

値が違ってくる。

p.684　機械の生産物の場合、労働手段に帰着する価値構成部分は相対的には増加するが絶対的には減少する。

物が大量に生産される。スピードが

速くなる。一つひとつの絶対額は少な

くなるが、商品の価値全体の中の割合

としては労働手段の部分が増えていく。

（機械はどこまで労働者を追放するか）

機械を備えて、どれだけ賃金を節約

できるか、機械の減価償却のどちらが

安いか。機械の生産性は、機械が人間の

労働力にどれくらい代わることができ

るかという程度の問題である。

自動ミュール紡績機－366ポンド（目

方）の綿糸をつくるのに2人半の労働

者が1日10時間働いても6日かかる。

計、150時間。

　　　　 　手回し機で366ポンドを紡ぐのに

27,000時間かかる。ミュールだと150

時間、手回しだと27,000時間である。

（機械の価値と労働力の価値）

p.689　機械そのものに対象化された労働は、つねに機械によって代替された生きた労働よりもはるかに小さいのである。

機械の中に入っている労働力の価値

は、生きた労働よりもはるかに小さい。

p.690　資本にとっては、機械の使用は、機械の価値と機械によって代替される労働力の価値との差によって限界づけられる。

p.691　機械の国であるイギリスほど、つまらないことに人間力を恥知らずに乱費するところはないのである。

労働過剰で労働力が価値以下に切り

下げられる場合には機械は使われない。

馬の代わりに女性を使っている。

1. 労働者におよぼす機会経営の直接

的影響

機械の導入によって労働者にどうい

う影響が出てくるか－いかに人間を酷

使するか－を3点に分けて言及してい

る。

〔的場p.201〕

（a）－資本による補助的労働力の支

　　　　　配機械が筋力を不要にする。女性、子ど

もなど家族全体が労働者となる。家族4

人とすれば、4人労働力の価値は、1人

の労働者よりも高いが、4人の男性労働

者よりも低く抑えられている。

煙突掃除夫

乳児死亡率

児童労働

（b）－むしろ労働時間が長くなる

機械は間断なく動く。張り付く労働

者の労働日を減らすのではなく、むし

ろ延長させる傾向がある。機械に駆逐

された労働者層をつくりあげ、それに

よって多くの過剰人口をつくる。労働

者は資本に抵抗できなくなる。

（c）さらに労働は強化される

　　　　　　労働者は抵抗し、標準労働日の低減

をかちとる。機械は必ずしも労働日を

延長させることに成功しなかった。そ

れに代わり、労働の強化が起きてくる。

労働強化こそ、機械制大工業が生み出

す新しい現象といえる。労働運動の増

大の中で資本は新たな剰余価値の生産

を模索するが、それこそが単位時間当

たりの生産量を増大させる労働強化で

ある。機械の速度を速めること。②機械

を監視する領域を拡大した。

　　　　　　資本家は工場法のもとで、労働強化

がもっとも効率的に行われるべき時間

という意味で減少させられる。

〔浜林p.75〕

（a） 資本による補助的労働力の取得、女性労働および児童労働

p.693　女性労働および児童労働は、機械の資本主義的使用の最初の言葉であった。

男が追い出されて女性や子どもが使

われるようになる。

p.694　労働力の価値は、個々の成年労働者の生活維持に必要な労働時間によって規定されただけでなく、労働者家族の生活維持に必要な労働時間によっても規定された。

　…夫の労働力の価値を彼の家族全員に分割する、そのための機械は、彼の労働力の価値を減少させる。

（賃金の引き下げ）

世帯賃金でなく、単身者賃金になる。

熟練工は20シリングだったが、主人は

12シリング、女性はその半分、子ども

はそのさらにその半分、あわせて20シ

リングとなる。

　個々の労働者の価値が分割されて切

り下げられる。

　資本家と労働者の契約が根底から変

わってくる。これまでの前提は、労働力

の価値どおり売られているということ

で来ている。しかし、いまや

（妻子を売る）

p.295　しかしいまや、資本は、児童や未成年者を買う。

‥、いまや労働者は、妻子を売る。

親が妻や子どもに値段をつけてしま

うことを「妻子を売る」と表現している。

p.696　（彼らに代わる機械が存在するにもかかわらず）

「生きた煙突掃除機」という話。

（児童の死亡率）

p.699　この高い死亡率はとくに母親の家庭外就業によるものであり‥‥児童の放任と虐待、なかでも栄養不適、栄養不足、アヘン剤投与などによるものであり、…

子どもを寝かしつけるためにアヘン

を投与した。

「イギリスにおける労働者階級の状

態」（エンゲルス）

工場法の1日2時間の教育条件はい

　　　　　い加減だった。5坪に75人。

（労働者の抵抗をくだく）

p.705　マニュファクチュアにおいて男性労働者が資本の専制に対抗して行っていた抵抗を、ついに打ちくだく。

機械の導入の2番目の影響として、

労働者の抵抗（第5節）が弱まった。

（b） 労働日の延長

機械の導入によって労働日が延長さ

れる。機械を遊ばせておくのはもった

いない。

（労働日の延長）

p.707　まず、第一に、機械においては、労働手段の運動および活動が労働者にたいして自立化する。

「永続運動機関」である機械に人間

の方が合わせて働かなければならない。

機械が長持ちすればするほど、その機

会がつけ加える価値が小さくなり、生

産物が安くなる。

（機械の耐用年）

（機械の磨滅）

p.710　物質的磨滅のほか、いわゆる社会的磨滅もこうむる。

‥機械の最初の生存期間には、労働日を延長しようとするこの特別な動機がもっとも強く作用する。

「社会基準上の磨滅」：機会が世間の

水準に比べて古くなる。まだ使えるが、

もっといい機械が出てきて古くなった。

機械が「生きて」いる間に、なるべく

使いきる。

p.712　資本が、一方では絶えず価値増殖しうるが、他方では生きた労働との接触を断たれるとただちに使用価値と交換価値を失ってしまう形態に縛り付けるからである。

機械によって剰余価値が生まれるの

ではなくて、その機会を動かしていつ

労働者によって剰余価値が生まれる。

（機械使用の内在的矛盾）

p.716　労働時間短縮のためのもっとも強力な手段が、労働者およびその家族の全生活時間を資本の価値増殖のために自由に処分できる労働時間に転化するもっとも確実な手段に急変する。

剰余価値を増やすためには労働者を

増やした方がいい。ところが、機械を使

うために労働者の数を減らすわけであ

る。剰余価値も下がってしまう。

機械の使用は、資本主義社会では「内

在的矛盾」がある。つまり、労働者を減

らしながら、剰余価値の絶対額を増や

さなければならない。この矛盾の解決

を、労働者の数は減るけれども、剰余価

値率・搾取率を高めることに資本家は

求める。すなわち、相対的剰余労働を増

加させるだけではなしに、絶対的剰余

労働（労働時間）延長することをやらざ

るを得ない。本来、機械は労働時間を短

くするためのものであったが…。

　機械を使うことにより、むしろ、労働

時間は長くなる。

（c）　労働の強化

同じ時間内でより多く働かせる。

（労働の強化）

p.718　外延的大きさから内苑的大きさへの転換‥

同じ時間の中でたくさん仕事をさせ

るということ。

p.719　労働日の延長と労働の強度が相互の廃除し合い、…

長い時間働かせることと労働強化は

矛盾する。激しい労働を続けられず、限

界がある。仕事が激しければ早く終わ

らせる。資本家は矛盾を機械を使って

乗り越える、つまり労働強化のやり方

を工夫して‥

（労働強化の方法）

出来高払い（請負賃金）→第19章

で学習。生産量に比例して増えるので

はなく、その増え方よりも少し減らし

て賃金をあげていくやり方。

p.723 二通りの仕方がある――すなわち、機械の速度の増大によるものと、同じ労働者によって監視される機械の範囲または労働者の作業場面の範囲の拡大によるものとである。

1人で例えば10台の紡績機を見なけ

ればならない。

　　　　　　ベルトコンベアーのスピードをあげ

る。1832年に12時間労働になり、ス

ピードアップが始まった。

p.731 機械の非常な増加にもかかわらず、就業労働者の総数は減少し、搾取される児童の数は増加した。

男性に代わって女性や子どもが増や

され、労働者の数が減っていく。

1. 工場

〔濱林『資本論』を読む　p.86〕

工場の中の労働者）

機械が組織になって配置されるのが

工場である。その結果、どのような変

化が起きるのかが展開されている。

p.736 労働者はただ意識のある諸器官として自動装置のない諸器官に付属させられているだけで、…

労働者は装置の一部になる。装置が

主人、労働者は装置に使われている。

　　　　　　「自動装置（アウトマート）」は

「専制君主（アウトクラート）」であ

る。

p.737　諸労働の効率化または平準化の傾向が現れ、…

労働者は1人ひとりの技術的違い、

つまり熟練工、不熟練工の違いがなく

なってくる。マニュファクチュアは、熟

練が親方から弟子へ受け継がれた。そ

の必要がなくなった。

リレー制度－時間制限されていた児

童労働が交代で行われた。これが労働

者全体に広がり、工場は12時間労働、

昼夜二交代となる。

p.740　こうして労働者自身の再生産に必要な費用がいちじるしく減らされるだけでなく、同時に、工場全体への、すなわち資本家への、労働者のどうしょうもない従属が、完成される。

機械は労働者の仕事を単純化する。

労働力の価値のうち、労働力の養成費

用つまり技術を身に着ける費用は要ら

なくなる。

（生産性の拡大とその資本主義的利用）

　‥この場合にも、社会的生産過程の発展による生産性の増大と、社会的生産過程の資本主義的利用による生産性の増大とを、区別しなければならない。

機械を使うということ。

社会的な生産過程が発展すること。

→生産性が高まり、生産力が高まる。→

みんなが豊かになっていく。

　機械を、資本主義的に利用した場合、

労働者は貧しくなっていく。

区別しなければならない。

（働きがいのない労働）

p.741　機械労働者は神経系統を極度に疲れさせるが、…

…いっさいの自由な肉体的および精神的活動を奪い去る。労働の軽減さえも責め苦の手段となる。

…機械は労働者を労働から解放するのではなく、彼の労働を内部から解放する〔内容のないものにする〕からである。

ギリシャ神話－永遠に岩を持ち上げ

ては落とす。むなしい労働の繰り返し。

p.743　一つの兵営的規律をつくり出し

就業規則の登場である。

p.748　フーリエが工場を「緩和された徒刑場」と呼んでいるのは、不当であろうか。

1. 労働者と機械との闘争

〔浜林　資本論』を読む　p.89〕

ラダイト運動

先行して17世紀－リボン織機にたい

する反逆。水力にノコギリを民衆が壊

しである。

　ラダイト運動は1811年～16年ころ

にかけ、イングランド中部で起きた大

規模な機械打ちこわし」で。秘密組織が

あり、打ちこわしも整然と行われ、人身

への危害もはじめはなかった。

政府は1812年、「機械打ちこわし禁

止法」で最高刑を死刑とし、3万人の軍

隊を配置した。最終的には工場主とラ

ダイトの銃撃戦にエスカレートした。

民衆の支持を失い、鎮圧された。

なお、当時は団結禁止法下で労働組

合は非合法であった。

p.752　労働者が、機械をその資本主義的使用から区別し、したがって彼らの攻撃を物質的生産手段そのものからその社会的利用形態を移すことを学ぶまでには、時間と経験が必要であった。

織物の機械ができる、80万人が雇用

を失った。

「君たちの行動は間違っている。機

械が悪いのではなく、機械を使ってい

るやつが悪いんだ」

　高島炭鉱の打ちこわし（1878年Ⅿ11）

（農民追放）

p.755　まず、労働者が土地から追い出され、それから羊がやってくる。

羊を飼うために農民を土地から追い

出す。第24章の「いわゆる本源的蓄積」

である。

p.755　労働力の使用価値とともに労働力の交換価値も消滅する。

…労働者は、通用廃止になった紙幣と同じように、売れないものとなる。

機械が入ってくると労働者は要らな

くなる。

　交換価値が消滅するとは、賃金がも

らえなくなる。

p.756　イギリスの綿手織工たちの、緩慢で、数十年にもわたり、ついに1838年に決定的なものになった破滅よりも恐ろしい光景は、世界史上に見られない。

…1日2ペンス半でやっと糊口をしのいだ。

いちばん最初の救民法は1536年。生

活援助を受けている者を「受救貧民」と

よんだ。

　「1840年」というのは、イギリス歴

史で「飢餓の40年代」と言われている。

チャーティスト運動は1837年から。

1日2ペンスだと1週間で1シリン

グ。普通の労働者は1日3シリングか

せいでいた、

…「この窮乏は、商業史上はほとんどその類例を見ない。綿織布工の骨は、インドの平原を真っ白にしている」…

東インド会社総督の本国への報告書。

p.758　機械は、彼らにただ「一時的な不都合」をかけただけであった。

…機械の「一時的」作用は永続的である。

…機械とともに、初めて、労働手段にたいする労働者の粗暴な反逆が現れてくる。

「一時的」には「この世」の芋が含ま

れている。

　次々と労働者を殺していった。

（綿花飢饉）

p.760　イギリス綿業の絶頂の年である1860年に、‥

p.763　機械は，つねに賃労働者を「過剰」にしようとする優勢な競争者として作用するだけではない。それは、資本によって、賃労働者に敵対的な力能として、声高くかつ

意図的に、宣言され取り扱われる。

綿織物が生産過剰だぅたので生産制

限のチャンスとした。この時期、機械

が改良されて労働者がさらにクビにな

った。

機械は労働者の反抗を打ち砕く有力

な武器になる。

p.767　あけすけな軽蔑的態度のゆえだけでなく、また資本家の矛盾した頭脳の無思考ぶりをしゃべりまくる素朴さのゆえにも、工場精神の典型的表現なのである。

ユアー「マニュファクチュアの哲学」

機械によって労働者がおとなしくなっ

た。機械の発明や利用を手放しでほめ

たたえている。

1. 機械によって駆逐された労働者に

関する補償説

機械の導入により労働者は失業するけれども。失業してもほかに働く場所ができるから心配することはない－「補償説」批判である。

〔浜林『資本論』を読む　p.97〕

（新しい職場へ移れるという弁護論）

機械をつくる部門では新しい労働者

が必要となる。

機械が入って生産があがれば、いろ

んな部面で労働者の働き口が増える。

p.769　一連のブルジョア経済学者たちは、いずれも、労働者たちを駆逐するすべての機械が、いつの場合もそれと同時にまた必然的に、まったく同じ労働者たちを就業させるのに十分な資本を遊離させる、と主張している。

壁紙製造所－100人働き1人当たり

年間30ポンド。全体で3,000ポンドが

可変資本である。不変資本3,000ポンド

で計6,000ポンドの資本でやっている。

新しい機械が入って50人をクビにする。

賃金部分は1,500ポンドで年間1,500ポ

ンドが浮くことになる。このことは資

本が「遊離される」という。この浮いた

資本をほかのところに使い、新しく労

働者を雇えばよい－「補償説」である。

（この議論のごまかし）

p.769　ここで生じているのは、資本の遊離ではではなく、労働力と交換されなくなる形態で資本が拘束されること、すなわち、可変資本から不変資本への転化である。

建物。石炭は度外視されているので、

6,000ポンドの資本は原料と賃金だけ

で6,000ポンドである。ここに機械がは

いる。資本は3,000ポンドの原料＋

1,500ポンドの機械＋1,500ポンドの賃

金となる。労働者が50人減るので賃金

総額は30ポンド×50人=1,500ポンド

である。

結論－賃金として支払っていた資本

を機械設備の方にまわしただけ。資本

の「遊離」ではなく、可変資本から不変

資本に変わったのだということ。

（遊離した資本をどこで使うか

…新しい機械の製作がかなり多くの機械工を就業させる。

仮に新しい機械が1,000ポンドだと

すると、500ポンドが余るが、それで雇

用できるのは16人強（500÷30＝）で

あり、クビの全員は雇えない。

　では余った資本1,500ポンドで新し

い機械をつくると失業した労働者を雇

えるか、どうか。全部を賃金に回すわけ

にはいかず、生産手段の価値、賃金、剰

余価値を考えると50人がそこに吸収さ

れない。

（遊離するのは労働者）

p.771　実際、あの弁護論者たちも、資本のこの種の遊離についていっているのではない。彼らは、遊離された労働者の生活手段について言っているのである。

皮肉な言い方で「労働者は生活手段

から遊離される」－生きていけなくな

る。

…1500ポンドの価値をもつ生活諸手段と彼らとの連関をなくし、…

〝悪いことを言葉でやわらげるのも作法というものだ〟。

ものは言いようだ。

p.772　遅かれ速かれ、資本と労働者とは、再会しなければならないのであり、そのときには補償がなされる。

いずれはどこかで雇ってくれるよ－

その間、我慢している訳にはいかない。

（生活手段が過剰になる）

労働者は失業すると賃金を失い、生

活手段を買えず、商品が過剰になる。

p.772　それらの商品にたいする需要は、減少した。〝ただそれだけのことだ〟

（クビきりが広がる）

以下は、現代の日本経済を見ている

ような記述である。

p.772　生活必需品の生産に従事している労働者たちも、彼らの賃銀の一部分から「遊離」される。

p.773　生産諸部門においても、労働者を街頭に投げ出すことを証明するのである。

p.773　ある産業部門から投げ出された労働者たちは、…

…前途はいかに見込みの少ないことであろうか。

p.774　最初の犠牲者たちは、この過渡期のあいだに大部分が零落して滅びてしまう。

（生産が増え生活が豊かになるという弁護論）

p.774　機械の資本主義的使用と不可避な矛盾や敵対関係は存在しない。

機械設備やそのものから矛盾や敵対

関係が生まれるのではなくその資本主

義的使用から生ずるんだといっている。

p.775　機械は、それ自体として見れば労働時間を短縮するが資本主義的に使用されると労働日を延長する、それ自体としては労働を軽減するが、資本主義的に使用されるとその強度を高める‥、

労働日を延長する

　　　　　　労働の強度を高める

…それ自体としては生産者の富を増加させるが資本主義的に使用されると生産者を貧困化させる、…

生産者を貧困化させる

（失業は一時的か）

…単なる外観にすぎず、それ自体としては、したがって理論的にも、存在していない。

　その際一時的な不都合が生じることを、ブルジョア経済学者も決して否定しない。

資本主義の中で失業は生じるが、そ

れは「摩擦的失業」である。一時的に景

気が悪くなれば増えるけれども、景気

が良くなれば回復する。

機械の一般的使用と機械の資本主義

使用をごっちゃに議論している。

（他部門の雇用が増加）

p.779　労働材料とともに、労働需要が増加する。

イギリスの産業革命のあと、紡績業

がものすごい勢いで増えた。綿花を供

給するアメリカの奴隷が697,000人か

ら4,000,000人に増えた、

p.782　5つの新しい産業における修業者総数は94,145人である。

p.984　すべての繊維工場の就業者を、炭鉱および金属鉱山の従業員とあわせると、1,208,442人となる。前者を、すべての金属工業および金属加工業の従業員と合わせると、総数は1,039,605人となる。どちらの場合も現代の家内奴隷よりも少ない。資本主義的に利用される機械の成果のなんとすばらしいことか！

〔浜林〕は労働力の産業別構成推移をイギリスと日本で行っている。P.106

1. 機械運営の発展に伴う労働者の反

発と吸引、綿業恐慌

「反発と吸引」：労働者を追い出した

り、あるいは引き寄せたりする。

（労働者数の減少）

工場部門が拡張すると、労働者の数

は相対的に減るだけでなく、絶対的に

も減る。増えるように見えてもそれは、

もともとの工場ではなく、合併など副

次的なもの。

　　　　　　増えた中身を見れば女性と児童。

総資本500ポンド＝不変資本（c）200

＋可変資本（ｖ）300

　　　　　　機械が、労働者2／3が解雇され、可

変資本は100になる。

　機械が入り不変資本は400になる。

　　　　　　結果　総資本500ポンド＝不変資本

（c）400＋可変資本（v）100

可変資本は減る。

総資本が増えても同様である。

（他部門の拡大）

p.791　東インドは、大ブリテンのために綿

花、羊毛、大麻、黄麻、藍などの生産を強制された。

…オーストラリアが羊毛生産地に転化したように

‥ほかの産業部門－織物工は資本に

比べれば相対的に減少している。

綿花はイギリスでできない。アメリ

カ南部に依存していたが、不足すると

インド綿花を使っていた。インドはク

ッションの役割。

羊毛は、スペインから輸入し、19世

紀中からはオーストラリアから大量に

輸入している。

（新しい国際的分業）

…新しい国際的分業がつくり出され、それが、地球の一部を、工業を主とする生産地である他の部分のために、農業を主とする生産地を変えるのである。

地球上で工業国と農業国がはっきり

分かれてくる。

　植民地ではモノカルチャー（単一作

物栽培）となる。

　ブラジルのコーヒー

　マレーシアの天然ゴム

　オーストラリアは羊毛

　セイロンのお茶

　イギリスは19世紀には食料の自給が

できなくなっていた。

（景気循環）

p.794　産業の生活は、中立の活気、繁栄、過剰生活、恐慌、停滞という諸時期の一系統に転化する。

イギリス本国の産業の景気循環。景

気変動の順番を示し、景気循環の影響

を述べている。イギリスでは19世紀の

初めから終わりくらいまで、大変几帳

面に10年ごとに景気が循環している。

（「反発」と「吸引」）

p.794　労賃を労働力の価値未満に弾力的に押し下げることによって商品を安くする努力がなされる一つの時点がそのつどに現れる。

p.797　このような労働者は、不断に、反発されたり吸引されたり、あっちにやられたりこっちにやられたりするのであって、…

p.997　工場労働者の運命は、イギリスの綿工業の運命をざっと概観すれば、もっともよく例証される。

イギリス綿業の好景気、不景気、恐

慌の歴史を見ている。

p.799　…工場主たちに都合のよいときにやってきたのであり‥

「都合のよいとき」：南北戦争と綿花

飢饉。綿織物は過剰生産になっていた

が、綿花飢饉が生産調整の役割を果た

した。

　　　　　　イギリスは「社宅」は労働者を会社に

縛り付けると労働組合は反対だった。

p.801　…生産諸過程の変革が労働者を犠牲にして進行した点である。

マルクスは不景気になった場合に資

本家がそれをどう乗り切るか、労働者

を使った〝実験〟だったと書いている。

第8節　大工業による、マニュファクチュ

1. 手工業、および家内労働の変革

工場で機械が採用され、そのまわり

にどのような影響がおよんでいくのか。

（手工業やマニュファクチュアの没落）

p.807　正方形に並べて建てられた小屋の列の中央に、蒸気機関のためにいわゆるエンジン・ハウスがもうけられ、そしてこの蒸気機関がシャフトによってそれぞれの小屋のなかの機械と結結びつけられた。

この小屋工場が12年続いた。300の

小屋工場は全滅した。手工業やマニュ

ファクチュアは機械にはかなわない。

（下請け化）

「問屋の外業部」とは、工場制度以前

の古いシステムを絶滅させないで、下

請けとして使うこと。その分かれ目は

賃金だった。

　　　　　　下請けの賃金は「チームレイバー」と

いって非常に安かった。アイルランド

のシャツ工場は、

p.810　本来の工場におけるよりもいっそう恥知らずなものとなる。

下請けの最低の労働は「苦汗労働」と

いわれた。

（以下、具体的な事実の例示）

p.811　…ぼろの選別

明治維新の前。日本から？肥料とか

紙の原料となっていた。

p.816　…レース生産に就業している。

「女主人の家」誰かが、レース仕上げ

の元請を行い、そのもとで10人くらい

が狭い部屋で朝10時から夜の8時まで

仕事をする。忙しいと遅くまで…。肺結

核がひどかった。

p.825　イギリスにとっては、イギリスの習慣や趣味までもが支配的となっている植民地市場をも、――絶えず拡大させたもの。また日々拡大させている者は、まさに、商品に転化された人間の汗と血との安さであった。

1861年、裁縫関係の下請けが100万

人と人口調査。安く仕立てて植民地に

売る。イギリス流の服装がどんどん世

界に広がっていった。

（ミシン）

p.826　機械の時代を告げる鐘が鳴った。

機械とはミシンであった。日本でも

戦前はシンガーミシンを使っていた。

p.837　最近10年間のロンドンにおける餓死の恐ろしい増加は、ミシン裁縫業の拡大と並行している。

p.828　資本家がかなり多数のミシンを自分の建物に集中し、次いでそのミシン生産物を家内労働者のあいだに配布して、それ以後の加工をさせるという制度である。

仕立てた後のボタン付け、装飾をつ

ける仕事。

（工場経営のひろがり）

p.832　工場経営の本質的条件は、とくに労働日の規制を受けてからは、結果の正常な確実性、すなわち、与えられた時間内に一定分量の商品または所期の有用効果を生産することである。

工場法が工場経営を促進する形がと

られた。零細企業は工場に太刀打ちで

きず、次第に工場に変わらざる得なか

った。

　工場法－1833年

　1848年　10時間労働法

　1864年　工場法拡張法

p.834　小親方の没落と資本の集中とを促進する。

（工場法による強制）

p.838　けれども、資本は、その代弁者の口を通じて繰り返し明らかにされているように、労働日を強制法的に規制する「一般的な議会制定法の圧力下でのみ」、このような変革に同意するのである。

慣習として「これ以上働かない」こと

が労働法のより、労働日の規制となっ

た。

第9節　工場立法（保険および教育条規）。

イギリスにおけるそれの一般化

保険条項というのは、工場内の衛生

設備であり、それは「きわめて貧弱なも

の」だった。

p.841　２，３の清潔装置、換気、および危険な機械にたいする保護のための諸規定に限られている。

p.843　この500立方フィートの空気の前で、工場立法は力尽きる。

非常に狭い、ゴミが多い。肺結核は産

業革命期から始まった。

小さな作業場を大きな工場に変えな

ければできない。工場法もそこまでは

強制できない。

（教育条項）

p.844　工場法の教育条項は、全体として貧弱に見えるとはいえ、初等教育を労働の義務的条件として宣言している。

工場法は工場で働く子どもには教育

を与えなければならないと規定。

割合と評価した見方をしている。

その成果はまず、知育および体育を肉体労働と結合することの可能性、したがってまた、肉体労働を知育および体育と結合することの可能性を証明した。

p.844　…工場制度から未来の教育の萌芽が芽生えたものであり、…

（教育と労働の結合）

p.845　全面的に発達した人間をつくるための唯一の方法として、一定の年齢以上のすべての児童にたいして、生産的労働を知育および体育と結びつけるであろう。

マルクスは工場法が教育は知育や体

育にかたょったものではなく、全面的

に発達したものでなければならないと

したことを非常に評価した。

（労働者は機械の付属品）

p.846　本来の工場では、労働者を一つの部分機械の自己意識をもった付属部品に転化することによって行われ、…

機械の一部になってしまう。子ども

には教育条項があるが、大人は大部分

が字を読めない。まったく、常識を失っ

た人たちとマルクスはいっている。

（秘伝から科学へ）

p.849　謎にしていたブェールを、大工業は引き裂いた。

…近代的工業の技術的基盤は、革命的である。

〝秘伝技〟－職人の技術は親から子

へ、親方から弟子へ伝えられてきたが、

技術学－テクノロジーとは機械が行

っている作業を細かい要素に分解し、

組立、学習によって技術を学ぶことが

できるようになった。

p.850　大工業の本性は、労働の転換、機能の流動、労働者の全面的可動性を条件づける。

…労働者階級の絶え間ない犠牲祭、諸労働力の際限のない浪費、および社会的無政府性の荒廃状態のなかで、暴れ回る。

特定の技能に熟練するだけでなく、

いろいろな技術を使いこなせるように

なる労働者をつくっていく。機械使用

のメリットである。

　機械使用のマイナス面。

（技術発展の積極面）

p.850　全体的に発達した個人で…

積極面－労働の転換、労働者の多様

性が認められるようになってくる。労

働者は機械の部品からいろいろな社会

的機能をもつようになる。

（総合技術）

p.851　初等教育を工場労働と結びつけるにすぎないとすれば、労働者階級による政治権力の不可避的な獲得は、理論的および実践的な技術学的教育の占めるべき席を、労働者学校のなかに獲得することになることは、疑う余地がない。

「総合技術」は、あらゆる技術の基盤

となってどこででも使える。技術学教

育というものができ上ってくる。

p.854　児童の権利が宣言されなければならなかった。

親が子どもを酷使するから保護が必

要だった。

（古い家族制度の解体）

p.855　古い家族制度の解体が、どれほど恐ろしくかつ厭わしいものに見えようとも…

…女性、年少者、および男女の児童に決定的な役割を割り当てることによって、家族と男女両性関係とのより高度な形態のための新しい経済的基礎をつくり出す。

「イギリスにおける労働者階級の

状態」（エンゲルス）－家族制度の解

体がおよぼす悪影響を言っている。

マルクスは新しい家族制度をつく

っていく基礎なのだといっている。

（女性の経済的自立）

家族のキリスト教的ゲルマン的形態を絶対的なものと考えることは…

一夫一婦制の単婚家族の意味。

古ローマ的形態、あるいはオリエント的形態を絶対的なものと考えることと同時に‥ばかげている。

p.855　野蛮な資本主義的形態においては、退廃と奴隷状態との疫病の源泉であるとはいえ、適切な諸関係のもとでは、逆に、人間的発展の源泉に急変するに違いない。

資本主義のもとでは、古い家族制度

が解体するのは、退廃と奴隷状態を生

み出すけれども、適当な諸関係（社会主

義）のもとでは、人間的発展の源泉にな

る。

（鉱山労働）

大ブリテンには3217の炭鉱があるが、

鉱山監督官は12人しかいない。

鉱山規制の法律－どんなに欠陥だら

けでも児童の労働時間を規制し、災害

にたいする責任を鉱山所有者に負わせ

たと「評価」している。

（階級闘争の発展）

p.877　資本の支配に対する直接的な闘争をも一般化する。

p.877　生産過程の資本主義的形態の諸矛盾と諸敵対とを、それゆえ同時に、新しい社会の形成要素と古い社会の変革契機とを成熟させる。

労働者階級と資本の対立が決定的

な時期を迎えるとしている。

（エンゲルスによる補足）

『資本論』第1巻が出たあとのことをエンゲルスが補足している。

第10節　大工業と農業

農業で機械が使われるとどういうこ

とが起こるかの話である。

　耕地面積は非常に増えたが、農業労

働者はあまり増えていない。

（農業の機械化）

p.880　科学の意識的な技術学的応用が現れる。

機械化、肥料など新しい技術の導入

がすすむ。

…資本主義的生産様式は、同時に、農業と工業との対立的に形成された姿態を基礎とする、両者の新しいより高い総合、両者の結合の物資的諸制度をつくり出す。

古い農業が破壊され、農業と工業の

新しい結合をつくり出す。

p.881　人間と土地とのあいだの物質代謝を、すなわち、人間により食料やおよび衣料の形態で消費された土地成分の土地への回帰を、したがって持続的な土地豊度の永久的自然条件を攪乱する。

資本主義的農業は土地をダメにして

しまう。

　環境問題、自然破壊が「資本論」のな

かで指摘されている。

p.881　都市労働者の肉体的健康と農村労働者の精神生活とを同時に破壊する。

人間と自然との物質代謝の破壊は、

生態系が破壊され、労働者の肉体的健

康が破壊される。

農村労働者の精神生活が、土地から

搾り取るだけの利潤追求のやり方なの

で、農村労働者もそちらに行ってしま

う。エコロジーを破壊する。

（生態系の再建）

…その物質代謝を、社会的生活の規則的法則として、また完全な人間の発展に適合した形態において、体系的に再建することを強制する。

「再建を強制する」：新しい生態系を

つくらざるをえない。

（環境破壊）

p.881　資本主義的農業のあらゆる進歩は、単に労働者から略奪する技術における進歩であるだけでなく、同時に土地から略奪する技術における進歩でもあり、一定期間にわたって土地の豊度を増大させるためのあらゆる進歩は、同時に、この豊度の持続的源泉を破壊するための進歩である。

p.882　土地および労働者を同時に破壊することによってのみ社会的生産過程の技術および結合を発展させる。

〔浜林p.138〕資本主義的な破壊が進

めば、そこから新しい発展の芽が生ま

れてくる。

労働と教育の結合の問題、農業と工

業の結合の問題は、社会主義への展望

に結びつけて主張している。むずかし

い問題でもある。

了